

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo: [www.johnabbottphoto.com](http://www.johnabbottphoto.com)

[Jimmy Cobb & Paolo Benedettini from the 2016 record sessions at Van Gelder Studios]

「スイート・ベイジル」でナット・アダレイのグループのライブが行われる情報を入手。ドラムにはジミーさんの名が記されていた。ジミーさんといえば、自分にとってアイドルの1人でもあったジャズ・ベースマン、ポール・チェンバースと鉄壁のリズムを刻んだドラマーでもあったため、ニューヨーク生活の記念すべき初ジャズ・ライブはこのライブしかないと思った。そして、何とかジミーさんのサインもゲットしたい、いやゲットしよう!と心に決めた。

ライブ当日、開店30分位前に店の近く到着しそわそわしていた。テーブル席は高価な食事を注文しなければ気まずそうで、当然そんなお金もなかったため、迷わずバーカウンターに座った。ニューヨークでの初ジャズ・ライブでだったこともあり、興奮と緊張で演奏された曲などはあまり記憶にないが、この日のリーダーのナット・アダレイはあのキャノンボール・アダレイの弟。ベースはウォルター・ブッカーだった。ジミーさんのクールな佇まいと生のドラムを体感した感動は今でも忘れていない。

1stセットが終わって休憩時間となった。ライブ終了後は直ぐに帰ってしまったり、ファンも群がるだろうと思い、サインをもらうなら休憩時間しかないと思った。すると、予想外のことが起きた。ジミーさんはじめメンバーが自分が座っているバーカウンターに飲み物を頼みに来たのだ。このチャンスを逃してはならないと持参していたノートを手に取り、ジミーさんに近づきサインを頼んだ。ジミーさんは微笑みながら、日本から来たのかと聞いてくれ、快くサインに応じてくれた。その時にジミーさんに近づく女の子がいた。小学生高学年か中学生くらいに見えたが、その子はジミーさんの娘さんでライブを見に来ていたようだ。

サインのお礼を言うと、ジミーさんとメンバーはステージの裏手に戻って行った。想像以上にあっさりとしてジミーさんのサインをもらえてしまったが、興奮と感動でサインに見入っていると、ジミーさんの娘さんが何度か自分のところ近づいて来た。日本人である自分がもの珍しかったのかは分からないが、何を話せば良いのか分からず、軽く微笑む程度しか出来なかった。だがその後、何を血迷ったか、その娘さんにジミーさんにドラム・スティックをもらえないか聞いて欲しいなどと頼んでしまった。

ジミーさんのもとに駆けていく娘さんの後ろ姿を見つめながら、相当の罪悪感と淡い期待感が入り混じった。娘さんがステージ裏に消えて暫くすると、娘さんがステージに上がり、ジミーさんのドラムセットからスティックを1本抜き出す姿が見えた。そして、こちらに駆け寄って来て自分にスティックを差し出すとそのままステージ裏に駆けて行った。「ええ、いいの?!」という驚きと幼い娘さんを利用してしまった罪悪感を抱きながら、そのまま2ndステージに突入した。ステージ後、ジミーさんのもとに経緯を説明しに近づき、スティックを見せると親指を立てて微笑んでくれたジミーさん。その笑顔とジミーさんの横で微笑む娘さんの笑顔は今でも忘れられない。ドラム・スティックには「Jimmy Cobb」と印字が刻まれていた。

その後、マンハッタのアパートに遊びに来る友人たちに自慢したことは言うまでもない。今でも家宝として大切にしている。「ジミーさん、ありがとう!」謹んでご冥福をお祈り致します。

## 《 R.I.P. JC 》

今回はニューヨーク生活でも特に思い出深い話。訃報と共に伝えなければならないことはとても残念だが、懐かしい最高の思い出の一つであり、感謝の意を込めて書かせてもらう。

今年5月24日に91歳のこの世を去った名ジャズ・ドラマー、ジミー・コブ。親しみを込めてジミーさんと呼ばせてもらうが、ジミーさんは鬼籍に入ったジャズの巨人たちと名演を繰り広げて来た生ける伝説だった。中でも、1959年に発表されたマイルス・デイヴィスの代表作で最も売れたジャズ・アルバムとして知られる『カインド・オブ・ブルー』に参加したメンバーとして語られることが多かった。

そんなジミーさんとの出会いは、ニューヨークに渡った1993年の春。憧れのニューヨーク生活をスタートさせ、当時ライブをチェックするのに最適だったヴィレッジ・ヴォイスという新聞に目を通していた。すると、当時存在していたジャズクラブ「ス

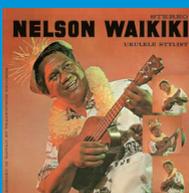
# Hawaii Walker's (ハワイの歩き方)

## Pele's Chair

### ペレの椅子

今回はオアフ島東部沿岸に位置するマカプウ岬と同じ州立公園カイワイ・ステート・シーニック・ショアライン内に行むパワースポット「ペレの椅子」。ペレというと「サッカーの王様」を想像してしまうが、「ペレの椅子」とは火山の女神ペレがオアフ島を創造した後に腰を掛けて休んだという伝説が残る海に向かってそびえ立つ黒っぽい岩のこと。仕事運や金運アップに良いそうだが、恋愛運についてはご法度ようで、ハワイの神聖な場所を訪れる際には様々なルールがあるので事前に確認が必要です。

## 《 ハワイな一枚 》



### ウクレレ・スタイリスト ネルソン・ワイキキ

Cord International [Import CD]

ウクレレ奏者ネルソン・ワイキキとギター・ベースによるウクレレ・インスト・アルバム。ノスタルジックな雰囲気を感じさせ、インク感も心地良い、12曲収録。